

戦後民主主義の行方

法政大学
山口二郎

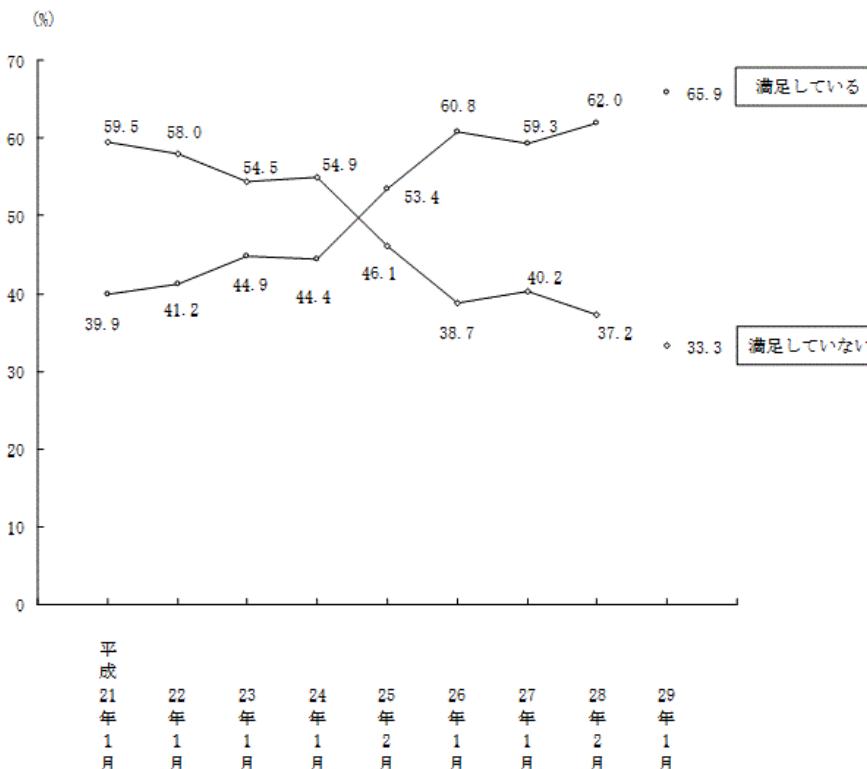
1 2010年代という失われた時代

① 2010年代という自民党の相対的安定期

- 2010年代の自民党の強さを支えた条件
- 民主党政権への責任転嫁
- 国民の正常性バイアス： たぶん大丈夫だろうという思い込み
- 低い投票率と自公協力による組織票の確保

社会への満足

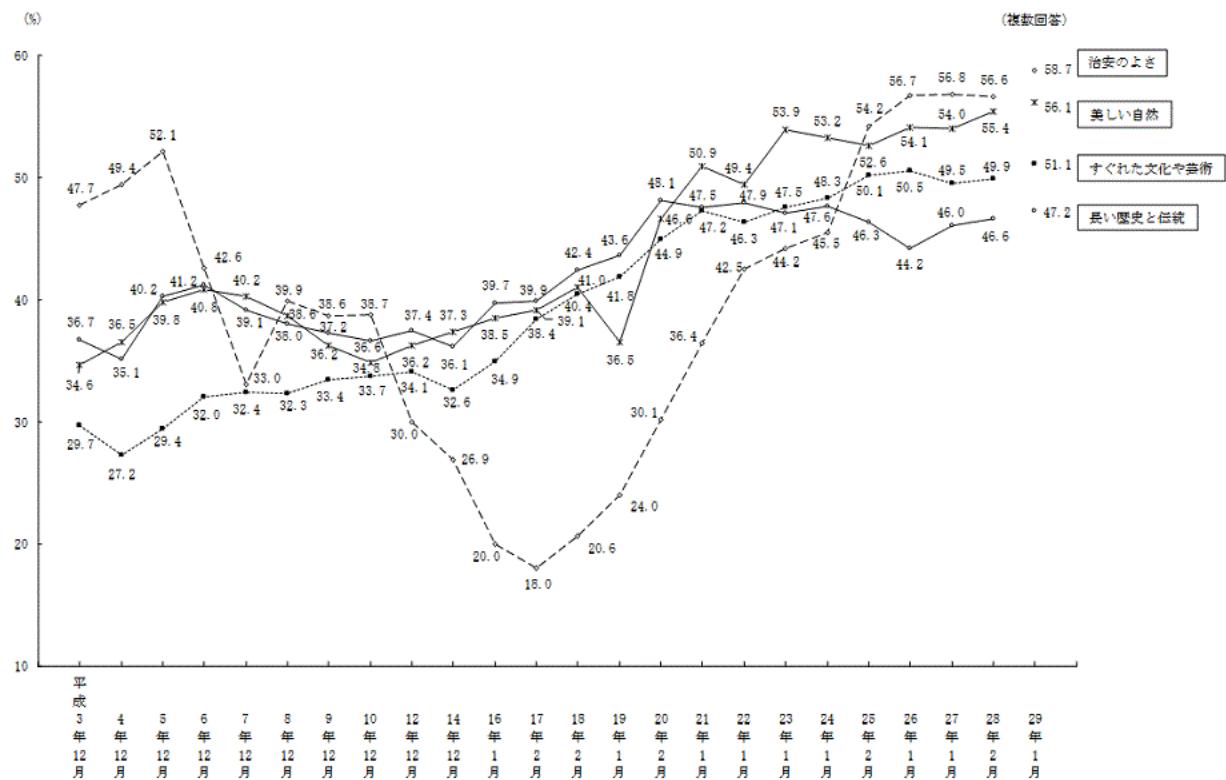
図14-2 社会全体の満足度（時系列）



(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

日本の美点

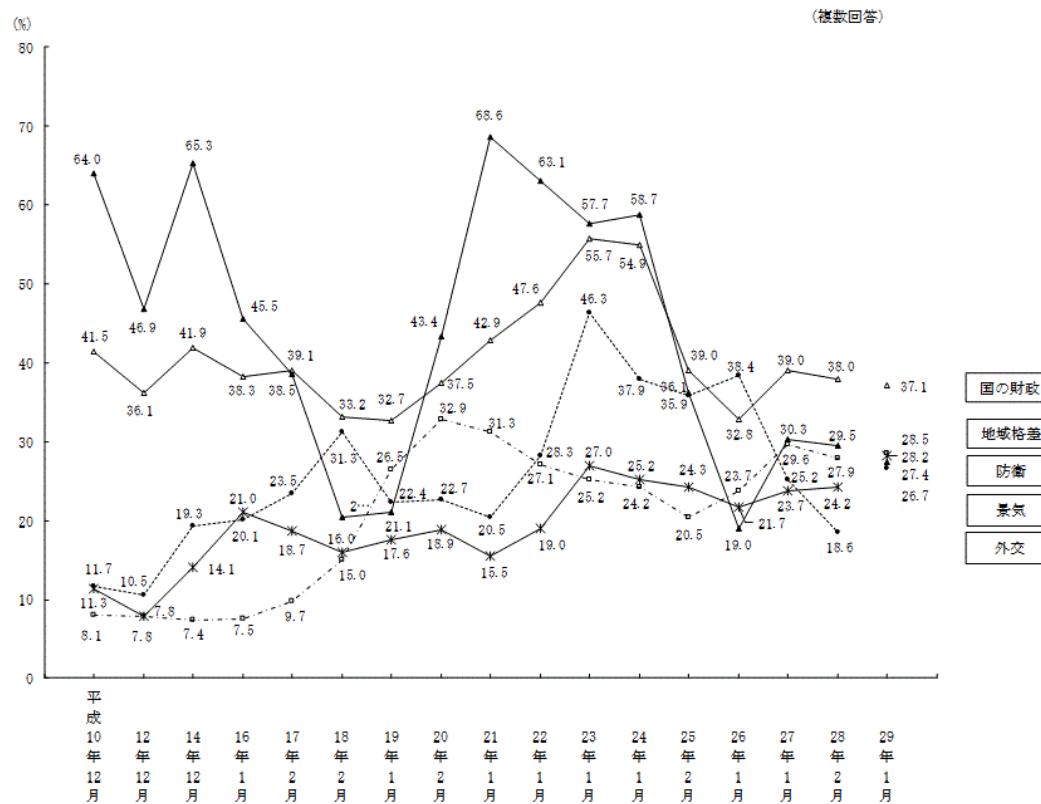
図11-2 日本の誇り（上位4項目、時系列）



(注) 平成23年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から15歳以上の者を対象として実施。

危機感の低下

図18-1 悪い方向に向かっている分野（上位5項目、時系列）

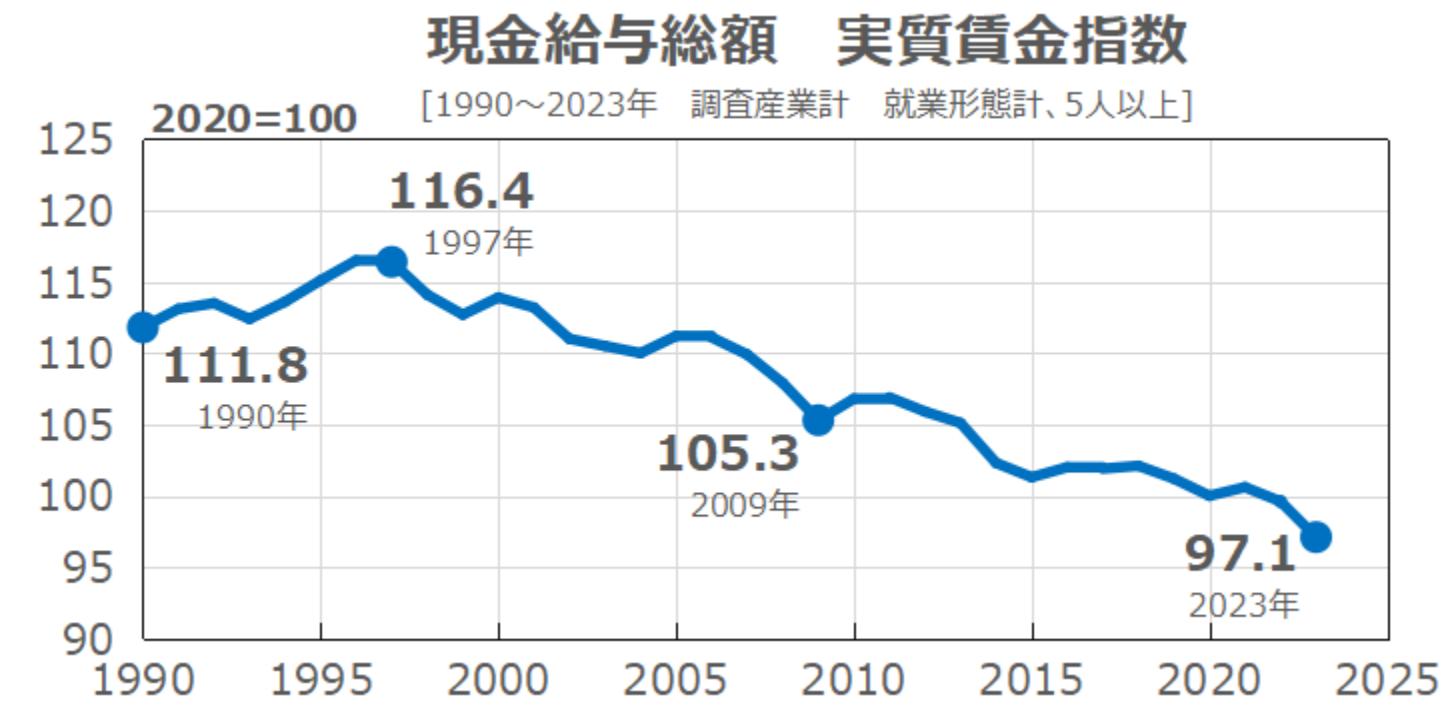


(注) 平成28年2月調査までは、20歳以上の者を対象として実施。29年1月調査から18歳以上の者を対象として実施。

② 2020年代の変化

- ・アベノミクスの帰結：異次元金融緩和と財政ファイナンス
- ・円安がもたらす富の移動
- ・株主資本主義と資源配分のゆがみ：格差貧困の深刻化と賃金の停滞
- ・人口減少と外国人労働力への依存
- ・正常性バイアスの終わり

実質賃金の低下



格差の拡大

所得上位10%の人、下位50%の人の所得の総所得に占めるシェア
(2023年)

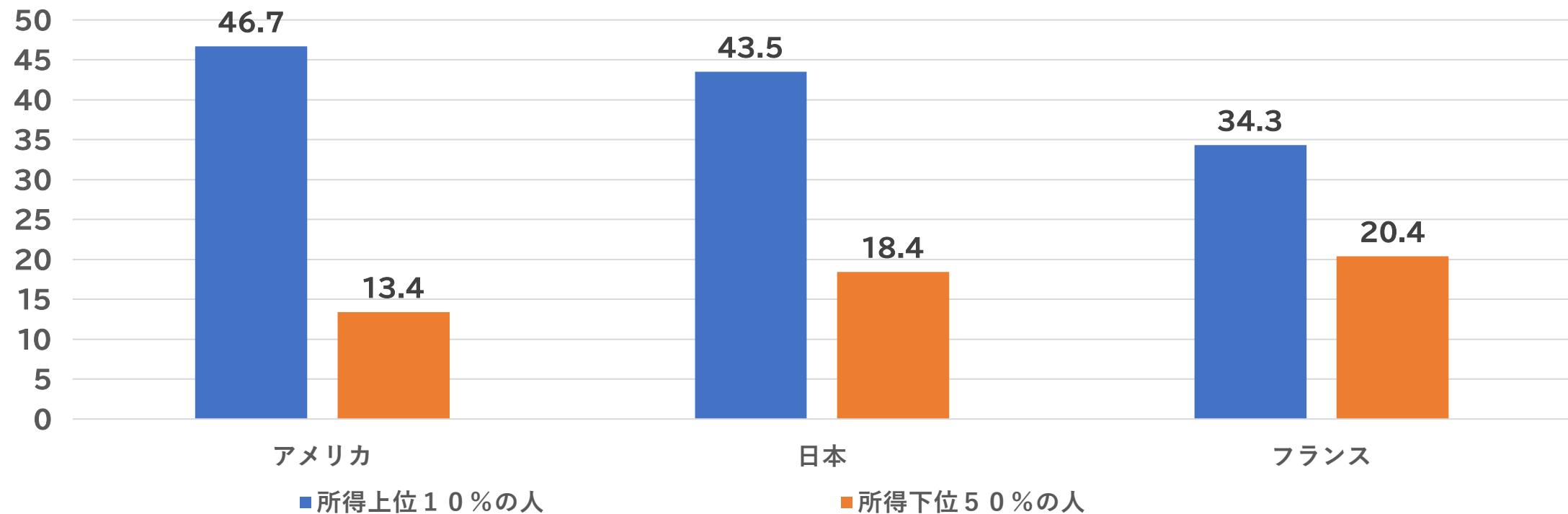


図14 社会全体の満足度

2023年11月調査

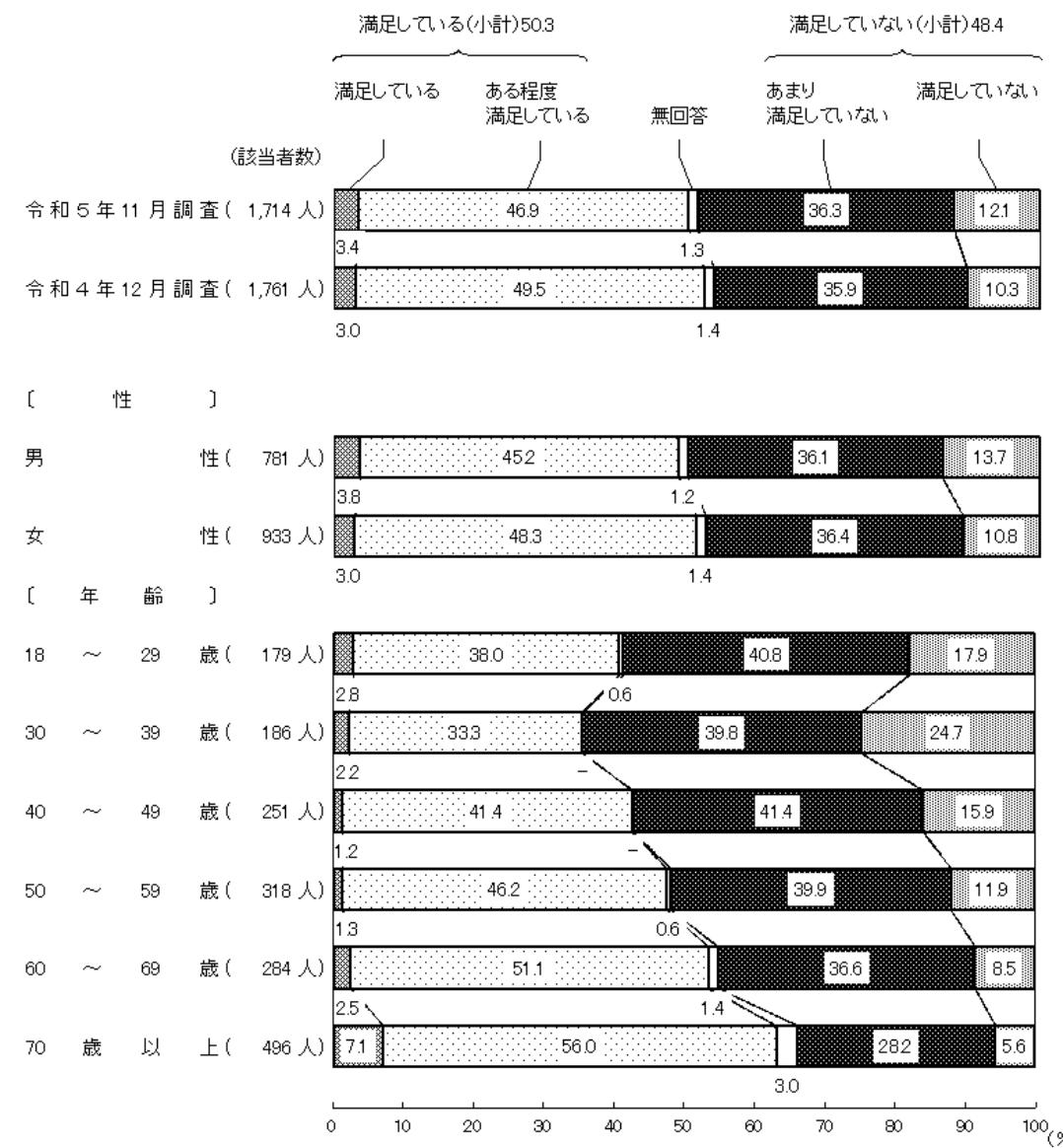
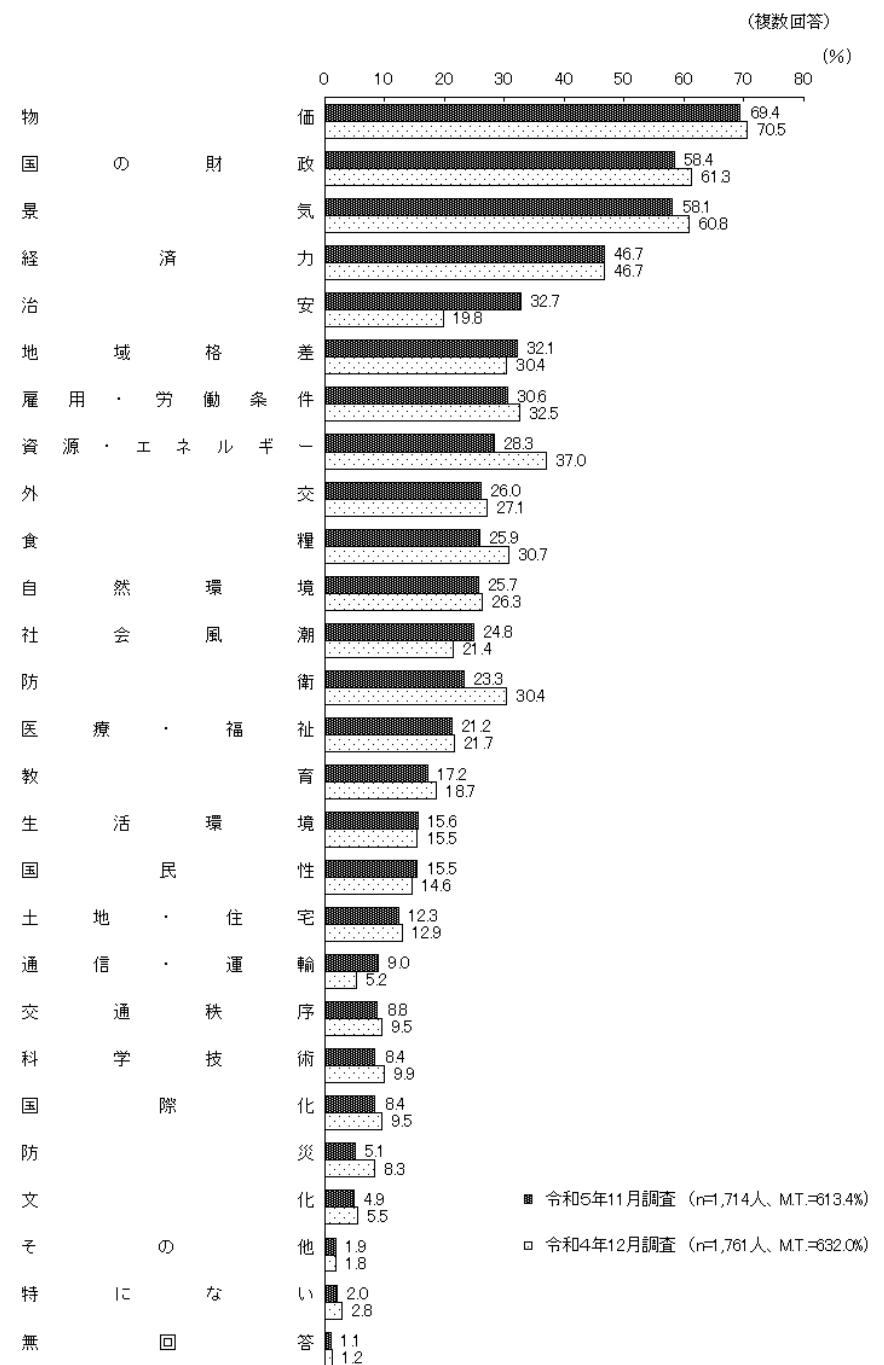


図18 悪い方向に向かっている分野



2 自民党の弱体化と高市政権

① 2025参議院選挙に現れた民意

- 投票率の上昇 58.5% (3年前より6ポイント、6年前より10ポイント上昇) → 誰が投票に行ったか？
- 自民党支持の低下、参政党、国民民主党の躍進

2022参院選 24衆院選 25参院選 (単位：万票)

自民	1825	1458	1280
国民	315	617	762
参政	176	187	742

② 自民党における振り子の動き

- 積極化の方向 岸田、石破の登場、しかし支持を回復できず
- 高市、保守的女性政治家という新しいカード
- 清新さと保守化の両方を狙う
- 右派の支持を回復、無党派層を取り込む／公明党の離反
- 政権支持と自民党支持の乖離

毎日新聞世論調査 2025.11.23

- 年代別の内閣支持率をみると、18～29歳74%（前回76%）
△30代76%（同70%）△40代71%（同69%）だった。一方で、
50代の支持率は63%（同68%）△60代62%（同65%）△70歳
以上56%（同53%）と若い年代の方が支持は高い。
- 支持政党別では、自民党支持層の89%、日本維新の会支持層の
82%が支持しているほか、国民民主党と参政党支持層の8割程
度の支持を集めている。与党だけでなく保守色の強い野党支持
層からも評価される傾向が続く。「支持政党はない」とした無
党派層も56%が支持すると答えた。

③ 戦後民主主義の危機

- ・台湾有事発言の問題点

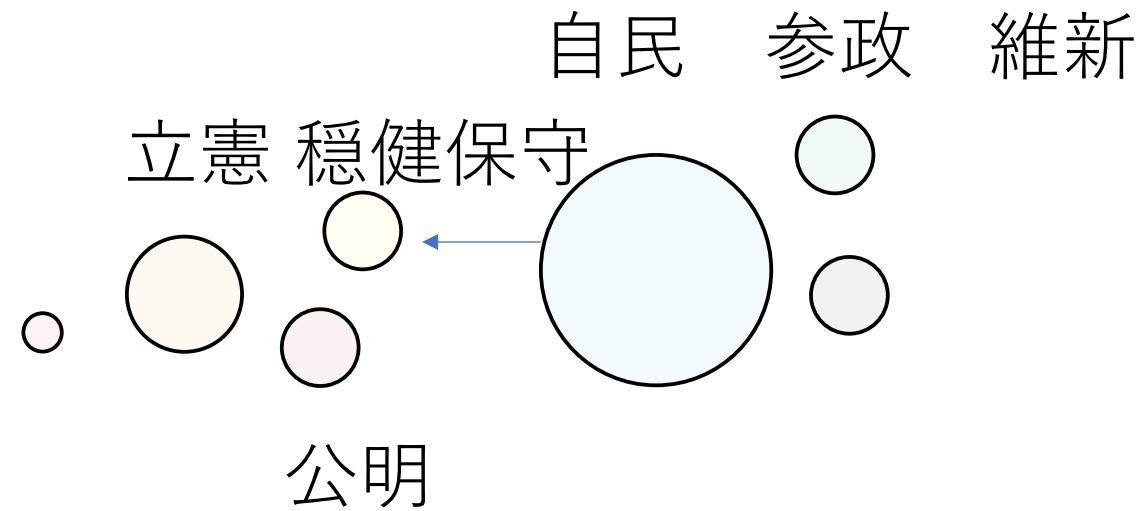
高市は集団的自衛権行使の具体的な意味を理解しているのか
アメリカの台湾防衛参戦を自明の前提としている愚

- ・ナショナリズムの煽動と「一億一心」の気配

質問した野党が悪いという暴論
メディアにおける同調圧力

④

新たな対抗図式



右派ポピュリズムの時代の厄介さ

- 外交安全保障、経済財政運営における困難
- 現実主義的アプローチとは何か
- 常識、稳健派に対する不満： 齒切れが悪い 暗い
- 「威勢の良さ」、「大胆さ」をどう乗り越えるか